

ひだか 議会だより

HIDAKA GIKAI DAYORI

第157号
平成27年1月31日



平成27年 成人式 (H27.1.11)

行政報告	2~4P
審議したこと・決まったこと	5P
議員提出議案・陳情・請願	6P
委員会活動	7~8P
一般質問に5氏が立つ	9~13P
議会日誌	14P
第3回臨時会	15~16P

行政報告(要旨)



戸梶眞幸村長

100歳以上の長寿の方々を表敬訪問

9月16日に100歳以上の長寿者7人の方を訪問させていただきました。自宅においでの方や施設、また病院とそれぞれの居場所です。穏やかに生活されていました。長寿の秘訣をお伺いすると「苦勞を苦勞と思わないこと」「腹にためない、言いたいことを言う」「なんでも興味をもつ」「市場に野菜を出す」など興味深いお話をお伺いすることができました。これからもお元気で過ごしていただきたいと思えます。

仁淀川子ども祭り&日高めだかフェスティバル開催される

9月23日には仁淀川子ども祭り&日高めだかフェスティバルが運動公園周辺で開催された。これは仁淀川子ども祭り&日高めだかフェスティバル実行委員会とNPO法人グラウンドワークひだかむらの共催で開催されたもので、仁淀川流域のおいしいものや様々な催し物・体験プログラムが用意され、終日、子どもたちの歓声に包まれた。

仁淀川下流衛生事務組合発足50周年

10月3日に記念式典が執り行われた。昭和39年に当時の土佐市、伊野町、春野町、日高村の4市町村で、環境衛生の向上に向けて組合を結成した。なくてはならない施設ではあるが、迷

惑施設ともいわれていた施設であり、設置場所である土佐市の英断、周辺の自治会のご理解ご協力なくしてはできなかったことを思うと、大変ありがたく思うところ。今後益々のご発展を願う。

日高めし

フェスティバル

10月5日に開催され、さわちオムライスが登場した。これはNPO法人わのわ会が、オムライス街道をさらに盛り上げようと企画し、イベントや日高のグルメが勢ぞろいし、終日にぎわっていた。オムライス街道のオムライス販売数は10月末で2万3千923食となっている。月平均3千400食余りだが、ここ2カ月平均では2千600食余りで推移しており、販売数の大きな落ち込みがないのは、テレビ等で取り上げられている効果だと思ふ。今後、「オムライス街道」を定着化していくためには、更なる努力とアイデアによる取り組みが

敢闘賞

必要ではないかと考える。

10月12日に中央地区の消防操法大会が開催され、ポンプ車の部に下分団、小型ポンプの部に本郷分団が参加し、両分団とも敢闘賞を受賞し日高村の消防団操法レベルは非常に高いと評価されており、今後とも精進に励まれ更なる上位入賞を目指してほしいと期待する。また、両分団には長期間の訓練お疲れでした。ご家族の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

国・県への要望活動

10月13日の台風19号では、排水ポンプ車は終日稼働したが、床下浸水が1件発生した。雨雲の状況から全村に避難勧告を出し、ピーク時の避難者数は31人であった。

8月の台風豪雨による浸水被害後の取り組み状況は、9月に開催された日下

川浸水対策調整会議以降、国、県、村による担当者会議・幹事会をそれぞれ1回開催し、更なる浸水被害軽減に向けそれぞれの役割分担を基に事業内容の検討を行っている。

村は、検討された事業メニューが速やかに採択され、事業着手がなされるよう、「浸水被害軽減のための抜本的な対策の実施」について、日下川改修期成同盟会による高知県選出国会議員・国土交通省・財務省及び高知県への要望活動を実施した。また、検討された対策案を実現するために、仁淀川改修期成同盟会の一員として共闘する所存である。

そして、11月26日に東京で開催された治水事業促進全国大会において時間をいただき、明るく安全で安心な未来に向けて「仁淀川とともに歩む」〜「300年を超える水との闘い」の最終章へと題して意見発表を行った。

その他の要望活動は、9月22日に過疎法適用外小規

模町村連絡会議（全国37団体加入）で総務省に対し、適用外小規模町村に対する支援拡充を要請した。過疎地域と適用外町村では財政支援をはじめとする特別措置はもとより、国の事業補助や事業制度の採択要件において大きな差があるところである。

本年度の法改正において過疎対策事業費の対象施設を追加する見直しにより、同じ小規模町村でありながら地域振興に対する国の支援差が一層拡大されたことから、国に対し特別交付税で算定される「準過疎地域のための特別な財政需要」について、既存の準過疎団体については、引き続き準過疎団体として特別交付税が措置されることや、過疎対策事業費債に準じる財政支援のある「地方債」の新設などの支援策を要請した。

村の貴重な一般財源であるゴルフ利用税の廃止が論議されていることから、ゴルフ利用税堅持のための全国市町村連盟（835市町村加

盟）の行動の一環として、10月25日の国会議員と町村長・町村議会議長との意見交換会、そして11月19日の全国町村長大会時に芸西村長とともに地元国会議員に要望を行った。

12月3日に災害時における広域福祉避難所（障害児者）の設置運営に関する協定書を仁淀川流域6市町村と県教育委員会が締結した。南海トラフ地震や風水害等の大規模災害時に、各市町村の福祉避難所に対応できない場合に、広域避難所として活用するためのものである。日高養護学校は、障害者等に対するノウハウを持たれた先生方がいることや、寄宿舎等の生活空間もあり、また立地的にも最適な場所でもあると思いま

す。今後、災害時に配慮の必要な方々の安心につながるように設置運営等の訓練を重ねていきたい。



治水事業促進全国大会において意見発表（戸梶村長）

村制施行60周年 記念式典

10月19日には、村制施行60周年記念式典と茂平フェスタを開催し、村内外から多くの方々のご来場を得て盛大に開催ができ、楽しんでいただけた。村が今後更なる発展を続けていくためには、治水等の課題を克服し高知市から16kmの地の利を生かした人口対策や、豊かな自然を活用した観光施策、シユガートマトやお茶、和紙等に付加価値をつけ売り出していく起業等、地方創生や地域活性化には人がキーワードになってくると考え、村の未来に向けて人づくりが急務だ。

オープン 「村の駅ひだか」

11月16日にグラランドオープンし1千人を超える参加者で会場が埋まった。11月1日のプレオープンから1カ月間の集計では、直販所レジを通過した来客数は1

万5千774人で、売上総額は1千374万余円、1日当たりの売り上げ45万余円、平均来客数525人、平均客単価871円であった。現駐車場スペースでは心もとないため、隣接地を借り上げる補正予算を今議会に計上している。

幸先良いスタートとなったが、年間を通して多くの来客を得るためには、集出荷体制や品揃え等の課題もあり、一つ一つ解決を図り本来の目的である、新鮮で安全な農産品等の提供、栽培の拡大、加工品の開発、情報発信基地としての役割、住民交流の場等として、多くの方々に親しんで活用していただける施設にしていきたい。

トマト選果場の完成

12月2日に改修工事が完成し稼働を始めた。8月の台風豪雨により浸水被害を受け稼働を休止していたが、攻めの農業緊急実践対策事業により総事業費3億2千910万円で工事を行っ

た。

村の基幹産業であるトマト栽培の最大の危機に対し、国、県、JACコスモス、関係自治体と国会議員をはじめ多くの方々の連携によって、事業採択から工事完成まで4カ月余りで完成という驚きのスピードでの事業展開が実現した。関係各位に心から感謝を申し上げます。

防災訓練の実施

11月9日に台風災害により延期していた防災訓練を中央地区で実施し、あいにくの雨のため日下小学校体育館での開催となる。

第8回ひだか

茂平マラソン開催

11月23日に晴天の中、日高村総合運動公園を会場に、四国を中心に全国12都道府県から1千200人を超えるランナーの参加をいただき盛大に開催ができた。ランナー受付の締切日1カ月前には予定定員に達した。

また、大会運営を支えていただいた約400人のボランティアの方々も昨年より多くの方々にご協力いただいたことは、村内外に「ひだか茂平マラソン」が認識され、広がりが出てきたことと考える。

当日は、沿道でのボランティアと住民の方々の温かいおもてなしや応援、クロスカントリー的な田園風景のコースの良さ等、好評の声がインターネットを通じて上がってきているとお聞きする。また、野外劇場ではトマト Pasta 早食い競争やお楽しみ抽選会などのイベントの開催と、ご当地ゆるキャラの「もへい君」と「勝頼君」が出演し、子どもたちを含め楽しんでいただいた。運営面、財政面等に課題はあるが、全国から参加者が集う村最大のイベントでもあり、1日だけではない取り組みも考慮し、活性化に向けていかなければならない。



第8回ひだか茂平マラソン参加ランナーの力走

第45回 ジュニアオリンピック 陸上競技大会出場

10月に日高中学校1年生の森田和伽さんが本大会に

出場され、100m予選において、13秒29の自己ベスト記録を更新された。すばらしい記録に敬意を表し、来年も出場していただき自己記録の更新と一層のご活躍を期待する。

高知県教育研究 実践表彰受賞

11月に能津小学校が受賞された。能津小学校は、複式教育推進「ふるさと未来教育」の研究協力校として学習リーダーを中心とした1人学び・とも学びの取り組みや少人数複式のよさを生かしたノート指導や個別指導に取り組みされており、その点が評価されたものです。今後ともこの取り組みを継続され、児童の学力向上、学校の活性化を推進していただきたい。

文部科学大臣 表彰受賞

日高中学校区学校支援地域本部が「平成26年度優れた地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞する。学校、家庭、地域が連携協力し、地域全体で子どもたちの教育活動を支援している取り組みが評価されたものであり、今後とも、この活動の推進をお願いしたい。

審議したこと 決まったこと

平成26年第4回定例会(12月)

H26.12.16~12.22

12月議会では承認1件、予算関係6件、条例関係4件、その他2件、議員提出議案4件、請願・陳情1件の計18議案が決まった。

承認

- ◎専決処分の承認を求めることについて(平成26年度一般会計補正予算(第6号))
歳入歳出予算の総額にそれぞれ402万5千円を追加した。

条例

- ◎一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
人事院勧告を考慮し、国準拠により所要の改正を行うもの。

- ◎村税条例の一部を改正する条例
軽自動車税の納期について改正するもの。

- (旧) 4月11日~同月30日
- (改) 5月1日~同月31日

- ◎日高村国民健康保険条例の一部を改正する条例
出産費用分の支給額を

40万4千円に改定するもの。

- ◎日高村給水条例の一部を改正する条例
休止から再給水の場合の手数料を削除するもの。

予算

(△印はマイナス)

- ◎平成26年度日高村一般会計補正予算(第7号)
歳入歳出それぞれ7千28万2千円を追加するもの。

問 村の駅ひだかの駐車場用地は、借り上げでなく購入をできないのか。

答 村が借り上げということで地権者より了承を得ている。

- ◎平成26年度日高村国民健康保険特別会計補正予算(第3号)
歳入歳出それぞれ21万2千円を追加するもの。

- ◎平成26年度日高村簡易水道特別会計補正予算(第3号)
歳入歳出それぞれ493万5千円を追加するもの。

- ◎平成26年度日高村介護保険特別会計補正予算(第3号)
歳入歳出それぞれ215万3千円を追加するもの。

- ◎平成26年度日高村後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)
歳入歳出それぞれ7万円を追加するもの。

- ◎平成26年度日高村一般会計補正予算(第8号)
歳入歳出それぞれ200万円を追加するもの。

その他

- ◎仁淀川下流衛生事務組合を組織する市町村の数の減少及び仁淀川下流衛生事務組合規約の変更について

- ◎仁淀川下流衛生事務組合から高知市が脱退することに伴う財産処分について



「村の駅ひだか」駐車場用の借地予定地

て 平成27年3月31日をもって仁淀川下流衛生事務組合から高知市が脱退することに伴う手続きについて、議会の議決を求めるもの。

平成26年度12月議会
議員提出議案

◎文化・伝統について学ぶ
 機会の一層の充実を求め
 る意見書

提出議員 森下雅文
 壬生豊秀、西川
 龍子、野村重夫、
 岡本光男、戸梶
 章、矢野孝明、
 森下芳文、横山
 泰昌

全員賛成 可決

◎軽油引取税の免税措置の
 堅持を求める意見書

提出議員 矢野孝明
 岡本光男、森下
 雅文、野村重夫、
 戸梶章、壬生豊
 秀、西川龍子、
 森下芳文、横山
 泰昌

全員賛成 可決

◎社会福祉法人に対する税
 制上の優遇措置の継続を
 求める意見書

提出議員 壬生豊秀
 西川龍子、戸梶
 章、矢野孝明、
 野村重夫、森下
 雅文、岡本光男、
 森下芳文、横山
 泰昌

全員賛成 可決

◎2015年度予算（介護・
 子ども）の充実・強化を
 求める意見書

提出議員 西川龍子
 森下芳文、横山
 泰昌、野村重夫

賛成多数 可決

決まったこと
陳情・請願

○2015年度予算（介護・
 子ども）の充実・強化を
 求める意見書採択の陳情

提出者 自治労高知県本部
 執行委員長
 山崎秀一

全員賛成 採択



祝

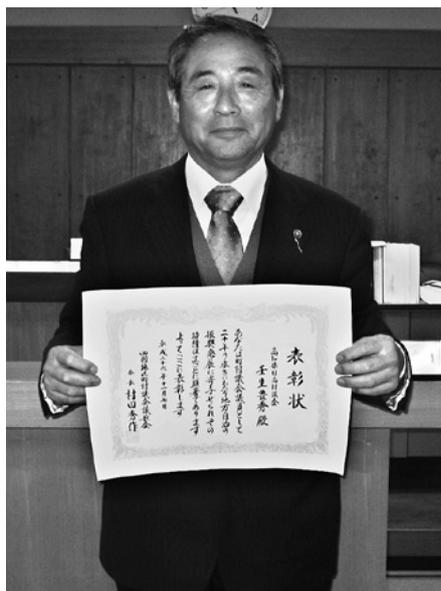
壬生豊秀議員
 戸梶昭澄前議員
自治功労表彰を受賞

平成26年11月7日、第55
 回四国町村議会議長会よ
 り、壬生豊秀議員並びに平
 成26年4月に任期満了でご

勇退されました戸梶昭澄前
 議員が町村議会議員とし
 て、20年の永きにわたり地
 方自治振興発展に寄与され
 その功績に対し表彰を受賞
 されました。
 心よりお祝いを申し上げ
 ますとともに、益々のご活
 躍をご祈念申し上げます。



戸梶昭澄前議員



壬生豊秀議員

閉会中の委員会活動報告

総務常任委員会



委員長 壬生豊秀

11月26日(水) 午前9時
30分より

森下(純) 総務課長より

1. 10月19日、日高村制施行60周年記念式典及び記念イベントの実施内容等の報告を受ける。村表彰関係では、功労表彰者3人、善行表彰者1人と1団体、また60周年記念表彰者30人の報告を受ける。
2. 11月9日の防災訓練実施内容の報告を



西本氏よりご寄付の土地

受ける。

3. 西本勝子氏より、本郷地区小鹿兎にご本人が所有する土地を村へ寄付の申し出を受けている旨の報告があり、検討の結果ご寄付を受けることとした。

4. 土佐くすのき荘から里道(村有地)の払い下げ申請を受けている旨の報告を受け、検討の結果、

払い下げを認めることとした。

片岡教育長より

11月3日に、第20回日高村文化祭開催の実施内容等の報告を受ける。

経済建設 常任委員会



委員長 野村重夫

大川内建設課長より

1. 8月の台風災害を受けて、仁淀川改修期成同盟会による、国・県への要望活動を行った。
2. 県による日下川床浸水対策特別緊急事業ということで説明を受け、当初は日下川下流域の未改修区間を想定していたが、変更になる可能性がある旨を中央西土木事務所より説明を受ける。
3. 村営住宅新築工事は、再入札を行った。1工区

は、(有)光洋産業、2工区は、(株)三和と契約を締結し工事を着手している。工期は、

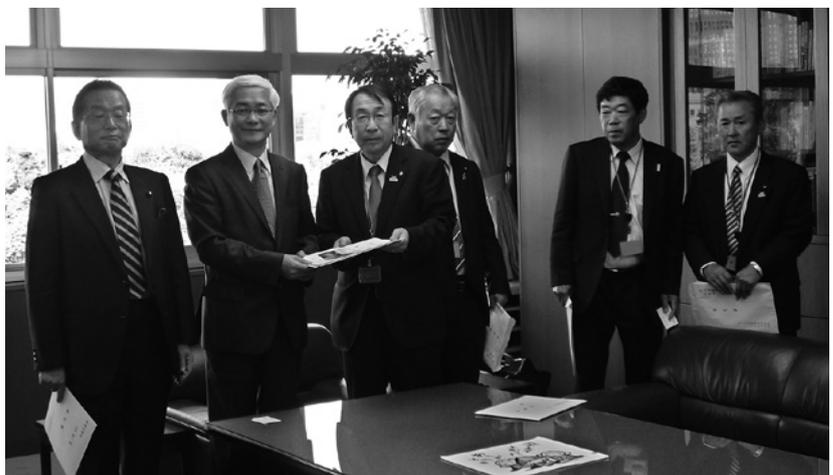
いずれも平成26年10月21日より平成27年3月20日となっている。

4. 9月30日、国交省による国道33号下橋交差点改良工事、東方への歩道延伸計画を地権者立ち会いにより、現地説明

会を実施した。平成27年度以降に補償調査、用地交渉を行う予定である。

松岡健康福祉課長より

1. 本年度11月現在の特定健診受診者は、507人、受診率43パーセントである。今後、個別の受診勧奨を行い受診率の向上を図っていく。



国土交通省への陳情

2. 日高村災害見舞金は、11月末現在、8月の台風12号災害で81世帯、11号災害で14世帯にお渡しするようになっている。

日高村振興対策 特別委員会



委員長 岡本光男

11月26日（水）午後1時
30分より

藤田産業環境課長より

1. 村の駅ひだか改修工事は、階段昇降機（11月14日完成）の設置を除き、10月末までに完成検査を実施し引き渡しを受けた旨の報告を受ける。

2. 11月16日、1千人を超える参加者により、盛大に「村の駅ひだか」グラウンドオープン開催の報告を受ける。

3. 村の駅ひだかの来客数並びに売上額等の報告を受ける。

4. 駐車スペースが25台分と少ないため、隣接地を借り上げ解決していき

い旨の報告を受ける。

5. 委員から出品者の公平を保つためのディスプレイに注意し、そしてお客様の期待に応える品質とサービスに注意をし、農産物については生産履歴が必要である等の注意事項を受け、今が一番大事な時であり、生産履歴についても必要と考えるので指導をしていくとの回答があった。

山崎建設課長補佐より

1. 公営住宅5戸の工事着手しており、3月完成。岡花住宅入居者2世帯を優先入居し、残り3棟は、入居者の募集を行う。

2. 県道庄田伊野線改良工事14カ所の進捗状況の報告を受ける。委員からは用地交渉ができない箇所は、工事箇所の変更を検討してはどうか。



公営住宅の建築状況

片岡教育長より

図書館改築の取り組み状況について報告を受ける。

また、14カ所改良は堅持してもらいたいとの意見があり、山崎建設課長補佐より、現場に足を運び見直し等を行いたいとの説明を受ける。

森下（純）総務課長より

日高村振興策エコ交付金の内訳について説明を受ける。

日高村治水対策 特別委員会



委員長 矢野孝明

11月28日（金）・午後3時30分より

大川内建設課長より

1. 8月の台風被害を受け、日下川改修期成同盟会を中心とし、国に対し抜本的対策を強く要望している。

2. 県は、床上浸水対策特別緊急事業については、日下川流域ではなく、日下橋付近の合流点より上流域の日下川拡幅工事を考えている。

3. 新残土処理場確保は、喫緊の課題であり、残土搬入路は村道認定し、県が2車線に拡幅する予定で



設置された太陽光発電パネル

ある。その他の要望については、本年度中に同意を得たい。

4. 11月26日、治水事業促進全国大会において戸梶村長が、日高村における抜本的な浸水対策の実現に向け、不転の決意で取り組むと意見発表した。

藤田産業環境課長より

太陽光発電事業の進捗状況と沖名残土処理場の崩壊箇所等の修繕について報告を受ける。

活力ある 村づくり



野村重夫議員

一般質問に5氏が立つ

質問 全国村サミットなどに参加して、合併してよくなったという自治体を聞くか。

答弁 戸梶村長

合併していない村が、合併している自治体の状況も分からず言うべきでないし、そういう話は今のところ聞いていない。

質問 日高村は合併しなくてどうか。

答弁 谷本副村長

日高村は単独でやってこれたということだ。村民に不安をかけないような取り組みができたと思っている。

質問 若者住宅の計画はどうか。

答弁 戸梶村長

福良住宅、鍛冶屋住宅も立地的に考えると、高齢者が生活するのに不便であり、できれば若者住宅にしたい考えはある。

質問 子育て支援の充実のため、医療費の無料化を現在の中学校卒業までを高校卒業（18歳）まで引き上げる考えはないか。

答弁 戸梶村長

村に移住してもらえらる福祉の充実施策として、保育料の無料化や高校卒業までの医療費の無料化も考え総合的に検討していく。

その他の質問

1. 地方創生問題。
2. 医療・介護改悪問題。



村発展の核となる「村の駅ひだか」

婚活で人口増進を



西川龍子議員

質問 結婚への価値観の多様化や若年層の経済的困窮等を背景に、未婚者の増加は全国的な傾向となっている。厚生労働省によると50歳時点で結婚の経験がない人の割合を示す「生涯未婚率」は、2010年時点で男性20・14%、女性10・61%と増加し、30年前に比べ男性の未婚率は約5倍となり、今後も緩やかながらも上昇し続け、2030年には男性29・5%、女性22・6%に達し、男性の3人に1人が結婚しない可能性がある、とあった。日高村の

婚活の現状と出会いだけでなく、もう一歩踏み込んだお世話のできる方々をお願いし、「日高おせっ会」をつくり、人口増に向けた取り組みを考えると考えるが。

答弁 藤田産業環境課長

平成21年10月から平成23年度まで「日高酒蔵会」が婚活パーティーを開催、1組のカップルが誕生。平成24年度から日高村商工会に委託。日高の観光地である屋形船や猿田洞などを舞台に結婚、猿婚等6回の婚活イベントが開催され、カップルはできたが結婚の情報は無い。観光等の業務が平成26年度途中から「村の駅ひだか」に移行しており、今後検討したい。

以前は、お世話のできる方が地域におられ出合いをつくらせていただいたが、最近はいない。声掛

不妊治療について

けや募集を行い組織化も図りながら協力をお願いし、村ぐるみの取り組みが非常に大事と思うので、前向きに取り組みたい。

質問 国・県は、保険適応

外の特定不妊治療の体外受精と顕微授精に対し助成しているが、その他の不妊検査や不妊治療、人工授精は助成がないが、近隣自治体では、独自の助成制度を拡充し実施している。人工授精は、最も受けやすい不妊治療と

答弁 松岡健康福祉課長

県内では、1市3町が助成を実施している。県においては、不妊治療助成件数が年々増加しているとお聞きしており、実施自治体のご意見を参考に、来年度支援実施に向け準備していきたい。

高校受験について

質問 今年度より受験方式

が変更となり、日高中学校でも受験対策を実施しているが、来年度から補助金が半額になるとお聞きしたが、子どもの貧困較差の是正のためにも、継続すべきと思うが。

答弁 戸梶村長

学校は多くの課題を抱えており、来年度予算に向けて、教育委員会と十分に話し合っていく。



改修工事が完成、12月稼働の始まったJAトマト選果場

学校教育の現状は



森下雅文議員

質問 心配する声が寄せられているが、診断名のついでに子どもはいるか。衝動的な行為に走る子どもは、どれだけのか。支援が必要な子どもへの対応はできているのか。

答弁 片岡教育長
診断名のついでに子どもは、小中学校で21人。

注意欠如多動性障害（ADHD）の診断がついている児童は、小学校で8名。傾向のある児童は、小学校で26人である。臨床心理士等による保・小中の発達段階に応じて継続的な支援を行っていき

質問 ステンドグラス等の損傷を放置しておくのは良くない。修復し、荒れた状況を払拭すべきだ。

答弁 片岡教育長
児童が勉強に集中できる環境が重要と考えている。学校と連携して進めたい。

河川改修について

質問 要望時に常設の大口径ポンプの設置や放水トンネルをもう一本貫くといった要望はしなかったか。

答弁 戸梶村長
日下川浸水対策調整会議が、2月下旬をめぐりに開催される。その時点で具体的に示されるので、それを待つて対応してい

きたい。

質問 改修に向けた体制づくりの検討は進んでいるか。

答弁 戸梶村長
3月議会後の人事異動に向けて検討を進めている。

土捨り場について

質問 地権者との話は、まとまってきたか。容量については、日下川上流部や戸梶川の掘削、新たな放水トンネルに対応できるか。

答弁 大川内建設課長
企業とは合意に至ると考えており、個人には、全員に同意をいただいた。埋め立て能力については、想定される国・県の搬出残土の全てに対応できる。

ふるさと納税について

質問 本年度中には、1億円を突破する町もある。村も用途のアップルや返札に工夫を凝らしてはど

うか。

答弁 戸梶村長
村の産品を売る有効なツールであり、内容の充実に向けて検討したい。

その他の質問

1. 村長の要望活動。
 2. 村制施行60周年記念事業。
 3. 「村の駅ひだか」
 4. 平成の合併評価。
 5. 地方創生総合戦略づくりについて。
- 他13項目。



残土捨場予定地

日下小学校 荒廃の原因は



森下芳文議員

初期対応の遅れでは

質問 日下小学校の荒廃の原因をどう捉えているか。

答弁 片岡教育長

色々な課題が重なり合っている。ベースは、通常学級にいる特別支援を要する児童の割合が高いこと。また特別支援学級に在籍する児童も含めて、レベル的にも小学校での力量を超える児童が多いという厳しい状況にある。
学校運営の点では、組織としての対応が十分でないと考ええる。

質問 組織的対応の弱点のことだが、問題行動の初期対応が手遅れになって問題がエスカレートし対応が後手に回ったという認識はないか。

答弁 片岡教育長

早期の手立てという部分では遅れたと感じている。

村の駅 試算との対比は

質問 開店して2カ月を経過するが、試算との対比は。

答弁 藤田産業環境課長

1カ月で単純比較すると、試算の約2倍となっている。

浸水対策は

質問 9月議会では、事実だけでなく解決の見通し

も知らせる必要があるとのことだったが、具体的にどのような見通しが立った時か。

答弁 戸梶村長

来年2月下旬に、日下川浸水対策調整会議を開催する予定。そこで抜本的対策案が示される。

有害鳥獣対策は

質問 農業経営が成り立つには、有害鳥獣対策は不可欠と思うが、実態把握と実情を聞く。

答弁 藤田産業環境課長

村では鳥獣被害防止計画を策定しており、計画に基づいて対策を実施している。実績としては、イノシシの昨年の捕獲頭数93頭、26年度は11月14日までに182頭、鹿は26年度2頭、ハクビシンが26年度1頭となっている。
質問 有害鳥獣駆除に関わっている人たちが、頑張り続けてくれる施策を。

答弁 藤田産業環境課長

来年度以降も報奨金を

検討したい。国では狩猟税の減免も行われると聞いている。

その他の質問

1. 村の駅、駐車場対策は。
2. 残土捨場のめどは。

3. 少子化の根本原因は。
4. メガソーラー買い上げ保留の影響は。
5. 災害復旧は。他7項目。



駆除されたイノシシ

新たな放水トンネルを



戸梶 章議員

質問 村長は、治水等に関する防災力強化が村の最重要施策と述べられたが、これを数値で示すと県内の繁藤や魚梁瀬を参考に31時間当たり800mmの雨量を想定すると、約925万㎡の余剰水を26時間で処理しなければならず、新たな放水トンネルを造るしかないと考えるが。

答弁 戸梶村長

日下川浸水被害調整会議において、神母樋門が閉門の状態である安全・安心の抜本的な対策を関係諸機関に要望・要請をしており、年度内に具体的工法が提示される。

質問 各自治河川等を含む村の重要諸施設に対する点検・確認状況は。

答弁 大川内建設課長

定期的確認は行っていない。しかし、村の重要諸施設については、定期的な点検が必要だと思っており、部分的には委託等により実施しているが、更なる点検に努める。

各課の主要施策を聞く

質問 より良い日高村を目指す施策を確認する。

答弁 片岡教育長

教育委員会の基本目標として
1. 知・徳・体のバランスのとれた新しい時代を生きる力を育む学校教育の実現。
2. 学校・家庭・地域が

連携・協力による地域全体で子どもを育む教育風土の実現。

3. 郷土の自然・歴史・文化を大切に、生涯にわたっていきいきと学び合い、育ち合う地域教育の実現。

4. 保健・福祉・教育の連携により、1歳から15歳までの子どもの育ちを総合的に支援する環境の充実。

の4つを施策の柱として取り組んでいる。

質問 建設課の重要上位3施策を聞く。

答弁 大川内建設課長

1. 国道が冠水しない治水事業の推進。
2. 生活道、村道等のライフラインの整備及び維持管理。
3. 耐震対策を施した水道ライフラインの整備及び簡易水道事業の統合。

質問 村道で救急自動車の通行が困難な箇所も多く改善・改良に努めていた

だきたい。

答弁 大川内建設課長

仁淀消防とともに、43路線が通行困難と確認し、現在3割程度が改善されている。

質問 産業環境課の主要施策を聞く。

答弁 藤田産業環境課長

1. 地域農業・商業・観光の振興、交流人口の増加が図られる「村の駅ひだか」の運営。
2. シュガートマト産地の確立及び発展。
3. 移住促進による日高村の人口増加施策。



現在の日下川放水トンネル(沖名入り口付近)

改選後、初の議員研修(調査活動)

平成26年11月19日～21日の2泊3日で改選後初の議会議員全員の参加により、山口県周防大島町並びに福岡県東峰村におきまして、研修をさせていただきました。周防大島町での研修内容につきましては、周防大島町における移住・定住促進事業並びに地域包括ケアシステムの取り組みについてと題し担当課長、職員の説明を受け、各議員からの質問や同行している藤田産業環境課長、松岡健康福祉課長より、当村における取り組み等の説明を交えながら活発な意義ある意見交換となる。

そして、福岡県東峰村におきましては、当村がこれから取り組みをする親水公園について、東峰村渋谷村長ほか担当課長、職員より説明を受ける。その後、現地視察による説明を受け、熟議された取り組み内容を教示され、当村の取り組みに大きな資料となった。

両町村の皆様方には、ご多忙の中、ご教示いただきまして誠にありがとうございました。



周防大島町での研修



東峰村での研修



10月15日第3回臨時会が開催され、条例関係4件、予算関係1件、その他3件の合計8件の議案が可決された。

条例

◎日高村家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例

子ども子育て支援法の制定により、村条例として家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める必要があることから、国の定めた基準に従い制定するもの。

問 今まで無認可保育所といわれていたものを、認可していく法的整備と受け止めてよいか。

答 新しく認可基準を設定し、今まで無認可保育所

であったものが、基準を満たしておれば認可されるということである。

問 能津保育所はどうなるのか。

答 日下保育園能津分園であり、新制度に移行しても現在と変わりはない。

◎日高村放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例

子ども子育て支援法の制定により、村条例として放課後児童健全育成事業の整備及び運営に関する基準を定める必要があることから、国の定めた基準に従い制定するもの。

くさか児童クラブについては、国の基準を満たしている。

問 学童保育について、支援員の資質向上を図る新たな研修を受けることや、24時間程度の研修を要するとあるが、人材確保の点で危惧する。日高の場合は、どのような研修となるのか。また、現

在学童保育に携わっている方々に、資格上の問題はないか。

答 村の放課後児童クラブにつきましても、条件を満たしている。

◎日高村特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例

子ども子育て支援法の制定により、村条例として特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める必要があることから、国の定めた基準に従い制定するもの。

問 研修の機会を確保とあるが、研修時の職員の確保は大丈夫か。

答 就学前教育の職員研修につきましても、代替え保育士等の配備により研修を実施している。

◎村の駅ひだかの設置及び管理に関する条例(新規)

地方自治法第の規定に基づき、さきさき市大規模改修工事により整備する施設「村の駅ひだか」について、必要な条例を制定し、平成26年11月1日より施行するもの。

問 階段昇降機の設置箇所は、村の駅ひだかの施設となるのか。

答 階段昇降機設置については、さきさき市大規模改修工事に一体化し施工しており、工事完成後は、本郷多目的集会所設備となる。

問 11月1日より条例の施行と工期11月30日となっているが矛盾はないか。

答 階段昇降機設置工事を除いた他の工事については、10月内に完成し完成検査を行い部分引き渡しを受け、11月1日より供用予定である。

予算

◎平成26年度日高村一般会計補正予算(第5号)

歳入歳出それぞれ1億2千864万8千円を追加するもの。

問 教育費災害関連事業で金明竹看板を修繕とのことだが、奥ノ谷のお宮へ入る所の看板が倒れていたが、どうなるのか。

答 確認をとり対処する。

問 村の駅関連の債務保証とは、赤字補てんと解釈してよいか。

答 村が行うべき観光事業と施設管理の委託料であり、赤字補てんではない。

問 台風時・台風後などの災害状況は、チェックできているか。

答 村道等主要な道路は、巡回パトロールを行っているが、細部については、村民の情報提供に頼る。

その他

◎さきさき市大規模改修工事(本体工事)の請負契約の変更について

9月定例会において、追加変更の議決を受けた階段昇降機の設置につき、建築確認の手続き等により、工期を1カ月延長するもの。

◎公の施設の指定管理者の指定について

10月10日、指定管理者選定委員会の協議により、(株)村の駅ひだかを候補者として選定したので、議決を求めるもの。

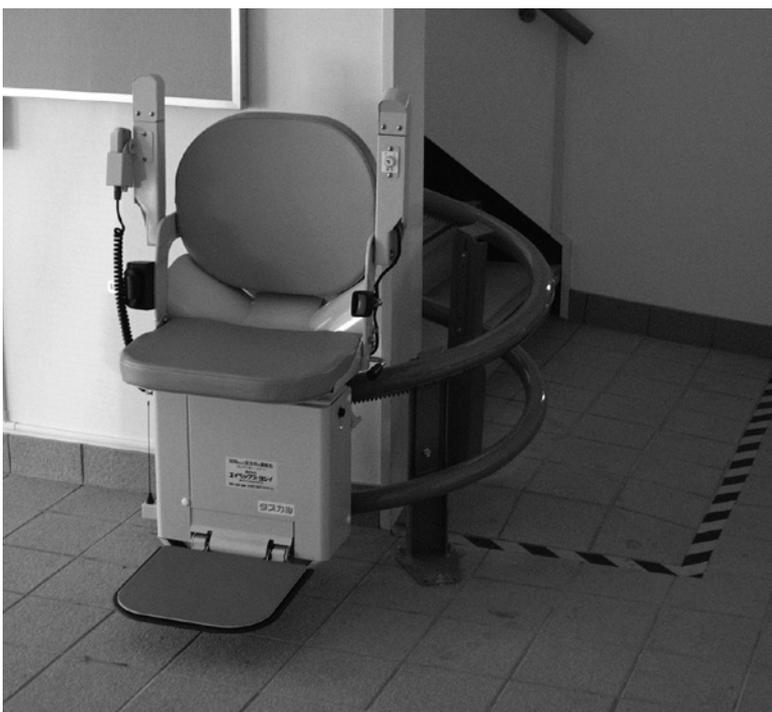
◎損害補償金の額の決定について

8月3日からの台風12号による消防関係者の車両両被害に係る損害補償金

問 今回のような事態を想定し、私有車を使用の場合もあるということ、事前届により公用車扱いとする制度整備も必要ではないか。

答 村が契約している保険等で対応できるか検討したい。

額の議決を求めるもの。



本郷多目的集会所(階段昇降機)

編集後記

2015年、戦後70年の節目の年が明けました。皆さんは、今年の抱負・計画は、立てられましたか。「一年の計は、元旦にあり」紛争のない平和な国を願っています。

正月に、日高村史を読み返してみました。古代から現在まで村民の暮らしが移りゆく時代の中に見えてきます。

今、みんなで取り組んでいる水害との闘いが、村史(P5)に記述されています。農耕にしても、水の低きに流れるに任せ、豪雨、長雨が降れば氾濫にまかすしかなかった時代、水利の不便な窪地を切り開いて水を引き、稲をつくることは、銅鉄器農具の考案されるまで、素手と足をもってするほかない苦労が相当長い時代が続いたことであろう。

昭和35年開渠工事中弥生式土器や土師器、須恵器を

出土した西田口の遺跡は、農耕原始人が住居を耕地に便利な低温地帯に移した証しだといわれるが、その耕作地、住居も時には仁淀川の入水や、日下川の氾濫で悩まされたことは、この時代から背負わされた日下住民の宿命であったかもしれない。

そして、村史(P217)では、昭和50年の台風5号の大災害から、復興、発展の将来が記述され、この項の最後には、村史(P218)「二瞬の悪夢に尊い犠牲となった人々の永遠の冥福を祈り、やがて訪れるであろう発展日高村の近き日の姿を待とう。」と結んでいます。2千年来の水との闘いを克服するため、歴史に学び歴史をつくる1年にしていきます。



冬の風物詩「ダイコンのスタレ干し」

次回議会は、3月6日(金)10時に開会の予定です。
お気軽に、傍聴にお越しください。

議会広報委員会へのご意見・ご提言を、よろしくお願ひ申し上げます。

「日高村議会だより」は、資源保護のため再生紙を使用しています。



第8回ひだか茂平マラソン（ハーフの部スタート）
（写真提供：オールスポーツコミュニティ）